

自分自身の弱さを見つめ、誇りある生き方を考えました

～3年生道徳の授業から～

去る2月27日(火)、28日(水)に、3年生の各学級にて、私が道徳の授業をしました。その時間は、ある読み物教材を活用して、生徒の皆さん一人ひとりがこれまでの体験を振り返ったり、自分と重ね合わせたりしながら、よりよい生き方についてじっくり考えました。

画集からヒントを得て美術作品を描こうとした主人公が、途中から自分の行為が間違っているのではないかというもやもやした気持ちをぬぐいきれず、最終的にはしめ切りに間に合わないかもしれないのに新たな作品づくりに取りかかるという教材でした。

自分の行為に後ろめたさを感じながらも「これでいいんだ」と何度も自分に言い聞かせたり、親や友だちなどに同意を求めたり、でもやっぱりダメかなと悩んだり・・・。気持ちが行ったり来たり。そうしたことは誰にでもありがちなことです。

「法にふれるかどうか」ではなく「自分が後ろめたさを感じるかどうか」は実に大切な判断規準です。そうした自分自身の規範意識を問い直し、より高い規範意識をもって誇りある生き方をしてきたいなと私自身も改めて感じました。

今回は、校長の私が道徳の授業をしました。道徳は、教師が知識や技能を生徒の皆さんに教える、というよりは、むしろ、いっしょに、よりよい生き方について考える時間だと思います。道徳での指導者(である私)は、むしろ一人ひとりの生徒がより深く考えられるような授業をデザインしなければいけないし、そのなかで私も皆さんと一緒に考えていくのだと思って授業をしました。



道徳は決して先生のありがたいお話を聞く時間ではありません。私は、よくそういう授業をしていたとつくづく反省しています。

人間は誰しも弱さをもって生きています。例えば、今回の授業内容なら、「これぐらいいいだろう」と考えて楽な方向に流れたりすることは、私もよく経験してきたことです。授業では、「(法にはふれないのだから)自分ならそのまま作品を完成させます。」と自分の弱さをさらけだしたり、「みんなに認めてもらいたい気持ちはあります。」と素直な気持ちを発表する姿があって、とてもすばらしかったと思いました。

自分の同じような経験をふり返りながら、「今度もそのようにがんばろう！」とか、「(前は行動に移せなかったけど)今度はこうしよう！」とより高い意識を持ってたなら、それでいいのだと思います。仮にすぐに実行できなくても、です。

あるいは、今はそう思えないけど、何年も先に、「中学の道德のあの時間にあんなことを話合ったけど、あれってこういうことだったのかな・・・。」などと思出すようなことがあれば、それもすばらしいことですね。

3年生の皆さん、勇気をだして自分の意見を発表した人や、思うように発表できなかったけど自分と主人公を重ね合わせてじっくり考えた人、人の意見を聞いて自分の考えを見つめ直していた人などさまざまですが、誰もが真剣に自分に向き合う姿があってすばらしい一時間でしたね。本当に貴重な時間をありがとう。

《みんなの感想、ふりかえりから》

誰かに認めてもらうより、自分で認めることが大切だと思う。本人が本当に描きたいと思って描いた絵以外からは何も感じられないと思う。

僕はどんな手を使っても、人に認められる存在になりたいから、他の人の絵をパクってた。

*この人は、この授業が大いにこれからの生き方に役立てられそう、とのふりかえりをしていました。

弱い自分を受け入れ、支え合って生きていくことが大事だと思った。なぜそれが「ダメ」なのかを考える必要がある。

誰にでも後ろめたいことはあるけど、自分の弱さを知り、自分に正直になることが大切だと考えた。

自分自身の規範意識は自分でしか築けないからこそ、どういう人間でいたいのかをよく考える。

**規範意識を高め、誇りある生き方をするのは難しい・・・。
でも、ありのままの自分をだして考えていてすばらしいですね。**

1年生「職業講話」(2月26日)



いろいろな業種の方を学校にお招きし、働くことの意義、仕事内容ややりがいなどについてお話を聞かせていただいたり、実践的な体験をさせていただいたりしました。

9月に職場体験を予定しています！

2年生「平和宣言文発表会」(3月7日)



平和学習を進めながら、個人や班で平和を実現するための決意となる宣言文を考え、各学級でまとめた内容を発表しました。

あと1ヶ月あまりで修学旅行です！